1 教育方針

(1) 教育目標及び教育目標を達成するための基本方針

<p>教育目標</p>	<p>人間教育を基盤とし、力を発揮した喜びを言葉で分かち合い、すべての児童が自己有能感を実感する学校教育を目指す。</p> <p>にっこり あいさつ ◎はっきり すてきなことば やる気いっぱい 心ひとつに</p>
<p>教育目標を達成するための基本方針</p>	<p>① 確かな学力の定着と豊かな個性を伸長する教育の推進</p> <p>新学習指導要領の具現化、教育活動の質の向上を目指し、カリキュラム・マネジメントの視点で学習指導要領を確実に実行する教育計画を編成・実施する。基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得・活用及び問題解決的な学習を通して、児童自ら主体的・対話的で深い学びを身に付ける教育を創造する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究開発指定校として「外国語科・外国語活動」の前衛的な実践とまとめができるように取り組む。 ・指導方法工夫改善加配を生かして、どの子どもも基礎的・基本的な知識や技能が確実に習得できるようにする。また、自己申告面談や学力テストの分析を通して、各学年の課題を捉え、OJTを計画的に実施するなどして、適切に授業改善を図るようにする ・ゆめのくに図書館の活用を積極的に進め、年1回の読書月間、「おすすめの本紹介カード」作成等の取組をし、全児童の読書定着と読書量の増大を図る。また、家庭への積極的な働きかけを行う。学習情報センターとしての機能の拡充を目指す。 ・豊かな語彙や表現力を育む言語活動を一層充実させ、取組成果を「朋有フェスティバル」として具現化する。 ・キャリア教育の充実を図り、自己の活動を振り返らせて記述をさせ、自分自身を捉えつつ、未来の自分へ思いを馳せられるようにする。 ・ICT機器を効果的に活用して、友達と考えを交流したり、共同的に学んだりする学習活動を積極的に取り入れていく。 <p>② 人権教育と豊かな心を育む教育の推進</p> <p>人権教育、道徳教育、特別活動等の充実を図り、子供たちの自尊感情と自己有用感を高め、他者とよりよい人間関係を形成する力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止、早期発見に努め、定期的に開かれるいじめ対策委員会を通して、早期対応、重大事態への対処をする。また、自己肯定感や自己有用感を培う心の教育を計画的に進め「豊かな人間性の育成」を図る。 ・人権教育担当を主として、人権教育プログラムを活用した職員研修を実施して、人権教育の推進を図り、道徳教育や生活指導を通して、子供たちの人権意識を高めていく。 <p>③ 健やかな体の育成と健康教育の推進</p> <p>運動や体づくり運動等の取組、自らの健康に関する意識を高め、生涯を通じてたくましく生きる基盤を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体的なISS活動（委員会活動）を軸として、心と体の健やかな児童の育成を図り、校内のけがや心のけがの未然防止に努める。 ・早寝早起き朝ご飯の生活リズムをつくり、元気な一日をスタートさせる。また、校門での毎日のあいさつ活動を中心に、児童主体でのあいさつ運動を全校で展開する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士を中心として、給食時には食べるだけで無く、マナーや食文化について理解が広がるような取組を行ったり、給食日より家庭と連携した食育や基本的な生活習慣の確立に努めたりする。 <p>④ 一人一人を大切にする教育の推進</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>より良い人生を生き抜くため、必要となる基礎的な力を育み、個性や能力に合った最適な学びを支える。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級、特別支援教室（くわのみ教室）、特別支援学級（竹の子学級）の児童一人一人の教育的ニーズに対応できる学びの場を充実する。特別支援コーディネーター及び特別支援専門員を活用し、児童の成長に寄り添う特別支援教育を一層推進する。 ・通常学級との交流授業および、共同学習を積極的に実施して相互理解を深める教育実践を行っていく。 ・学校2020レガシーをもとにした教育活動に引き続き取り組み、障害者理解教育を深めたり、豊かな国際感覚を養ったり、LGBTなどの社会問題に理解を深めたりしながら共生社会の実現にむけた力を養えるようにする。 ・アンケートや教育相談を生かして、保護者も含めて一人一人の心に寄り添った教育を実践していく。 ・週時程と一日の生活時程を工夫し、教員と児童が向き合い、ふれ合える時間を増やす。 ・不登校傾向の児童には、教育センター等の外部機関との連携を図りつつ、タブレットを活用するなどして繋がりを断たず、さらにその繋がりを強めていくような方策を実践する。 ・子どもの権利に関する条例を教職員で共有し、その条例を根拠に児童の安全・安心を守る取り組みを徹底する。 <p>⑤ 安全・安心な学校づくりと教育環境の充実</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>子ども自らが危険を回避する力を高める教育を推進し、インターナショナルセーフスクール（以下ISS）認証校として活力ある学校を充実させる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ISSの認証校として、区内認証校や認証を目指す区内小学校との連携を引き続き行う。 ・交通安全意識の向上を図るとともに、自転車ヘルメット着用率向上を図る。 <p>⑥ 学校と家庭・地域社会の連携・協働と学校経営改革の推進</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>SDGsの取組を軸として「社会に開かれた教育課程」の実現を図るとともに、地域の教育力をいかした特色ある学校づくりに努める。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの目標11「住み続けられる町づくり」の視点を重点化して、イケサンパークやサンシャインシティなど地域の特色ある施設や太鼓講師など特技をもった地域の人物と教育的な連携を積極的に図っていく。 ・学校ホームページで積極的に本校の教育活動について発信したり、学校安心・安全メールを活用して保護者と時機を得た連携を図ったりしていく。
--	---

(2) 本校の教育の特色

【ISSの取組の充実】

- 保健室データに基づく原因分析をきめ細かく行い、予防対策を明確にした活動を行うとともに実践を通じた評価・改善を行う。
- 安全指導や避難訓練など、年間を通しISSノートの活用を図り安全意識の向上に努める。ISSノートの振り返りを保護者に啓発する。
- 全校朝会でセーフタイムを設定し、全校児童の校内でのけがや心のけがなど安全意識を高める。

【言語活動の充実と表現力の育成】

- 研究開発指定校として「外国語指導」に関わる研究主題で研究を行う。主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を目指し、子供たちが「分かった・できた」を実感できる実践をしていく。
- 言語活動の発表の場である「朋有フェスティバル」を一層充実させ、言語による表現力の育成を図る。

【特別支援教育、日本語指導の充実】

- 竹の子学級児童と通常の学級児童が豊かに人間関係を築けるように、給食交流や校外学習、運動会学年演技、まとめ展など多くの機会を捉えて意図的計画的に交流を行う。
- くわのみ教室児童が、自分の課題に向き合い、解決するための手立てや支援を巡回指導員や特別支援専門員、学級担任が連携し、特別支援コーディネーターが中心になって組織的な指導体制を築く。
- 外国人適応指導や日本語指導において日本語指導教室の指導体制を構築し、学習言語能力の育成を図る。

【家庭、地域教材を活かした教育】

- イケサンパークやサンシャインシティなど近隣施設と連携できることに積極的に取り組んでいく。
- 西巣鴨中学校と連携して大塚バラロードの保全活動を行うなど、地域社会に貢献する児童を育成する。

(3) 幼小中一貫教育連携について

「学びの連続性」「育ちの連続性」を考慮した小・中連携教育に取り組むため、令和3年度に取り組んだ西巣鴨中学校・巣鴨小学校、朋有小学校の中学校ブロック3校での研究を継続・発展させる。教員チェックリスト・自己評価の実施。不登校児童・生徒へのオンラインでの支援をする。

- 「子供の未来を応援する対策」学力向上を目指す授業改善
 - ・学力向上における現状と課題をもとに授業研究を通して効果的な取組を共有する。
 - ・図書資料、ICT機器を活用した調べ学習や不登校児への支援などの実践について情報連携する。
 - ・学習規律や学習定着度、生活指導情報の情報交換を生かした小中連携の指導を徹底する。
 - ・研究の成果として作成した「チェックリスト（教員の具体的な手立て）」をもとに小中で共通の指導実践に取り組み、次該当学年への接続がスムーズに行えるようにする。
- ISS認証校として、ブロック連携校へのISS取組の発信と課題の共有・改善（モデルケースとしての取組）
 - ・校内のけがや心のけが、郊外のけがなど本校の取組を発信し、課題の共有・改善を図り連携強化に努める。
- 幼稚園（保育園）との連携においては、「アプローチカリキュラム」について理解し、「スタートカリキュラム」を活用する。また、1年生との幼保交流や、学校行事への招待等を計画実施することで連携を深める。

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

<p>各教科</p>	<p>◎研究開発指定校として「外国語」の教育実践について児童が「分かった・できた」を実感できる授業実践をしていく。</p> <p>○児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、各教科で「問題を把握する」「見通しをもつ」「自力で解決する」「協働的に学ぶ」「学び振り返る」学習過程に沿った問題解決的な学習を行う。特に「学び振り返る」を重視する。また、「学習環境」「板書とノート指導」「単元構成」をキーワードに授業改善を図る。</p> <p>○教科の年間指導計画のねらいに沿って、ティームティーチング、合同授業、学年間交流、地域講師や企業の活用など、多様な指導方法を展開し児童の学習意欲を高める。</p> <p>○国語科において基礎的・基本的な内容の確実な習得をめざすとともに、記録・報告・解説・要約・説明・論述等の多様な言語活動を積極的に教科等の学習に取入れ、互いに関連させながら思考力、判断力、表現力を育てる。</p> <p>○年間を通して音読に取り組み、言葉の美しさやリズムを体感し、それを伝えていく力を育成する。</p> <p>○算数においては、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、数量や図形の知識を活用する体験的な活動を、理科においては、見通しをもった観察・実験や、それが反映されたレポートの作成などを行う時間を確保する。</p> <p>○算数科で1年生から習熟度別指導体制を整え、個に応じたきめ細かい指導と評価の一体化を図り基礎学力の向上を目指す。</p> <p>○情報活用能力・課題解決能力を身に付けさせるためにタブレットPC等のICT機器を積極的に活用した学習を展開する。</p> <p>○豊かなスポーツライフに向けて運動に親しみ、仲間と豊かなかかわりを通して、集団行動力や体力向上を目指した体育科授業の充実を図る。また、学年・学級担任と養護教諭・学校栄養職員が綿密な連携を図り、保健学習及び食育の充実を図る。</p> <p>○教科領域の系統的かつ横断的な指導を工夫し、体力づくりや食育、がんの教育や歯と口腔の健康づくりに関する教育プログラムなど健康教育の充実と推進を図る。</p>
<p>道徳科</p>	<p>◎道徳の指導を充実するために、「道徳教育の全体計画」「道徳の時間の年間指導計画」に基づき、道徳教育推進教師が中心となり、全教職員で組織的・継続的に道徳教育を推進する。そのために年間指導計画に沿って月ごとの共通テーマで、教科書を始め東京都道徳教育教材集や文科省「私たちの道徳」等を活用し、道徳授業の充実を図る。各学期はじめに、必ず「いじめ」にかかわる授業を行う。</p> <p>○自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるため、自らの思いや考えを基にして、話し合ったり書いたりするなどの言語活動の充実を図る。</p> <p>○全ての教育活動を通して人間尊重の精神の基盤となる思いやりの心を育て、社会の一員としての自覚と規範意識を高めるとともに、児童の道徳的判断力・実践力を育成する。</p> <p>○道徳ノートを活用し、児童の変容や評価の手だてとする。授業後には道徳ノートを保護者に目を通してもらい、児童の変容を学校と家庭で共有する。</p> <p>○道徳実践力を育てるために、ボランティア活動や自然体験活動などの豊かな体験、家庭や地域の方々との交流、指導資料を手がかりにした間接経験等を通じて、児童が自分自身の生き方を深く見つめ、内面に根ざした道徳性を向上させることができるようにする。</p> <p>○家庭、地域と連携した道徳授業地区公開講座を通して、保護者や地域との連携を深めながら、日常生活で生かすことのできる道徳実践力の向上を目指した道徳教育のあり方を追究する。</p>

<p>外国語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○研究開発指定校として、研究主題を明確にし、他校の参考となるような研究実践に取り組めるようにする。 ○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度（Attitude）、実践的コミュニケーション能力（Skill）、言語や文化についての知識・理解及び発信の能力（International understanding）を育てる。 ○コミュニケーションを楽しんだり、相手が伝えようとすることを理解したり、外国の人や言葉に興味をもったりすることができるように、学級担任が中心となりA L Tと連携して歌やゲーム、体験的な活動を充実させる。 ○外国語活動の年間授業時数を計画的に確実にを行い、身近な生活場面や興味・関心のある題材や活動の工夫を通し、外国語によるコミュニケーションの意欲を高める。
<p>総合的な 学習の時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎「豊かな関わり」を視点とし、地域の文化や自然を取り入れた学習（豊島ふるさと学習）、国際交流等を通じて、国際理解、福祉・ボランティア学習に取り組むことにより、児童に、「課題を設定する力」「情報を収集し、整理分析する力」「表現する力」など、主体的に問題の解決や探究的な活動に取り組む資質や能力を育てる。 ○教科・道徳・特別活動との関連を図り、児童に、地域の人材や環境と関わりながら、「生命尊重」を柱に、食・環境・福祉・情報・国際理解を中心題材にした主体的な学習に取り組む。 ○具体的な活動や体験を通して、考え方・生き方を学ぶため、各学年で身に付けた基礎的・基本的な力を基にした探究的な学習を展開する。また、学習活動全体を通し、すべての児童が自己有能感・自己有用感を実感する学校教育を目指し、発達段階に応じて次のような目標を設定した。 ○体験的な学習、図書資料、コンピュータや情報通信ネットワークの活用等、多様な学習の場を設定し、問題解決的な学習を積極的に取り入れる。また、「調べる学習コンクールinとしま」に積極的に参加する。 ○学年ごとに安全教育、国際教育のテーマを設定し、各教科と横断的・探究的に取り組む。 ○ティームティーチング、地域講師の授業、学校内外の人材活用、地域の施設や学習材を生かした授業の創造、タブレットP Cの活用等、学習指導の方法を工夫する。 ○SDGsターゲット11「住み続けられるまちづくりを」に関わって、としま環境プログラムや「豊島の森」をはじめ、校内の自然など、環境教育の充実を図るために計画を立案し、推進する。また、第5・6学年において伝統・文化の学習として本校独自の「朋有太鼓」を計画的に実施する。3学期には、第4学年に太鼓の引き継ぎを通して本校の伝統と文化を継承する。 ○食に関する指導を計画立案し、推進する。生涯にわたり、健康な生活をおくるために児童自ら自分の体に興味・関心をもてるようにする。 ○学年ごとに安全学習に取り組み、問題解決学習による主体的な学びによって、「自分の命は自分で守る」意識を育み、「自分に何ができるか」考えさせることで、自ら危険を予測し回避する能力を育成する。
<p>特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級活動 児童会活動 クラブ活動 学校行事 	<ul style="list-style-type: none"> ○自他の良さを認め合う学級活動に努め、集団生活のしつけや規律がある望ましい学級集団の形成を図る。 ○清掃活動の充実を図り校内美化に努める。 ○年間指導計画に、各教科、道徳及び総合的な学習の時間との関連を明確にし、児童の創意が活動に生かされるように工夫する。 ○よりよい人間関係や学級・学校生活を築こうとする体験を積み重ねる学級活動を、一年間見通して段階的に行う。

	<p>○児童が企画立案した縦割り班活動（なかよし班）では、毎月交流活動（遊び・給食など）、朋有エンジョイタイム（業間運動遊び）などを通して、よりよい集団や人間関係を築こうとする自主的・実践的態度の育成を図り、力を発揮できるように配慮する。また、異年齢集団活動等を通して行い、集団の一員としての役割を自覚し、自発的・自治的に組織の運営に参加しようとする意欲を育てる。</p> <p>○児童によるセーフスクール委員会、拡大委員会（代表委員会＋各委員会の委員長）を中心としたISS活動を進め、活動の中で、地域・家庭等の日常生活において学びを生かし、児童が主体となって、学校内外の安全・安心に気付き、考え、実践することのできる児童を育成する。</p> <p>○地域の人々との交流を図りながら、ボランティア精神を養う活動や体験的な学校行事を推進する（地域清掃活動、地域施設との交流、地域合同防災訓練）。</p> <p>○移動教室や林間学校など、自然の中での集団宿泊活動を通して、規律ある態度や協力する気持ちを育てるとともに、健康で自然を愛し、人を思いやるやさしい心で、友達と仲良く助け合う児童を育成する。</p> <p>○体力向上を図るため、「一校一取組」運動や体育朝会及び朋有エンジョイタイム（業間運動遊び）に取り組む。全学年共通の縄跳びカードを活用し、学期一回表彰する集会を設け、各学級で短縄、長縄の取組を工夫して進めるようにする。朋有エンジョイタイムは、児童が楽しんで仲間と豊かなかわりをもちながら、体力向上を目指す。</p> <p>○キャリアパスポートに基づき、小中連携したキャリア教育目標を設定し、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動などを通じ、学ぶ意欲を高めるとともに、自己肯定感を培う。</p>
--	--

(2) 生活指導、進路指導

<p>生活指導</p>	<p>①いじめ対策</p> <p>○豊島区の「いじめ防止対策推進条例」「いじめ防止対策基本方針」および本校のいじめ対策基本方針に基づき、いじめ防止委員会を中心に組織的に未然防止、早期発見、早期対応、重大事態への対処に努める。</p> <p>○いじめにかかわる記録は、データ化し、毎週行う生活指導夕会で共有し、重大事態はすぐに対応する。</p> <p>○「SOSの出し方に関する教育」を6年生で実施する。</p> <p>②不登校対策</p> <p>○不登校対策に重点を置き、不登校や生活指導上の問題について、校内委員会はもちろん、スクールカウンセラーや教育センター等の関係機関との連携を強化する。</p> <p>③児童虐待防止対策</p> <p>○児童虐待防止セットを活用し、教育センター等の関係機関と連携し、児童虐待の防止に努める。</p> <p>④自殺予防</p> <p>○道徳等の授業を通して命の大切さへの意識を高めたり、一人一人を肯定的に評価することを通して自己有用感をもてるようにしたりする。</p> <p>○長期休業前には、全体で安全について指導をすることと休業明け前には気になる児童へは直接連絡するなどして命を守る取り組みを徹底する。</p> <p>⑤情報モラル教育</p> <p>○情報モラル教育で、学校SNSルールを基に、保護者と連携してスマートフォンや携帯電話等の情報機器の有用性や危険性に対する認識を培っていく。</p> <p>⑥学習規律の徹底</p> <p>○令和3年度の研究で作成した「チェックリスト（教員の具体的な手立て）」を全職員で共有して、実践する。</p>
-------------	--

第2表の4

学校名 豊島区立朋有小学校

進路指導	<p>○地域の人材活用や保育園や近隣の大学を含めた関係諸機関や保護者と連携をして、児童一人一人に望ましい勤労観・職業観や生涯学習への意欲を身に付けさせ、自らの生き方を考え、自己実現ができるよう、キャリア教育を実践し、将来への希望と期待をもたせるとともに、たくましい児童を育成する。</p> <p>○児童に、ボランティア活動や勤労体験活動を通して奉仕や感謝の心を育て、社会の一員として生きていく態度を身に付けさせる。</p> <p>○児童に、学習活動を通して、互いの違いやよさに気付かせることで、共に心豊かに生きていこうとする態度を育てる。</p> <p>○一人一人の児童が、自己理解を深め、個性や特性を伸ばし、生き方を主体的に考え、将来への夢や希望・抱負をもてるよう、キャリア教育を推進する。</p>
------	--